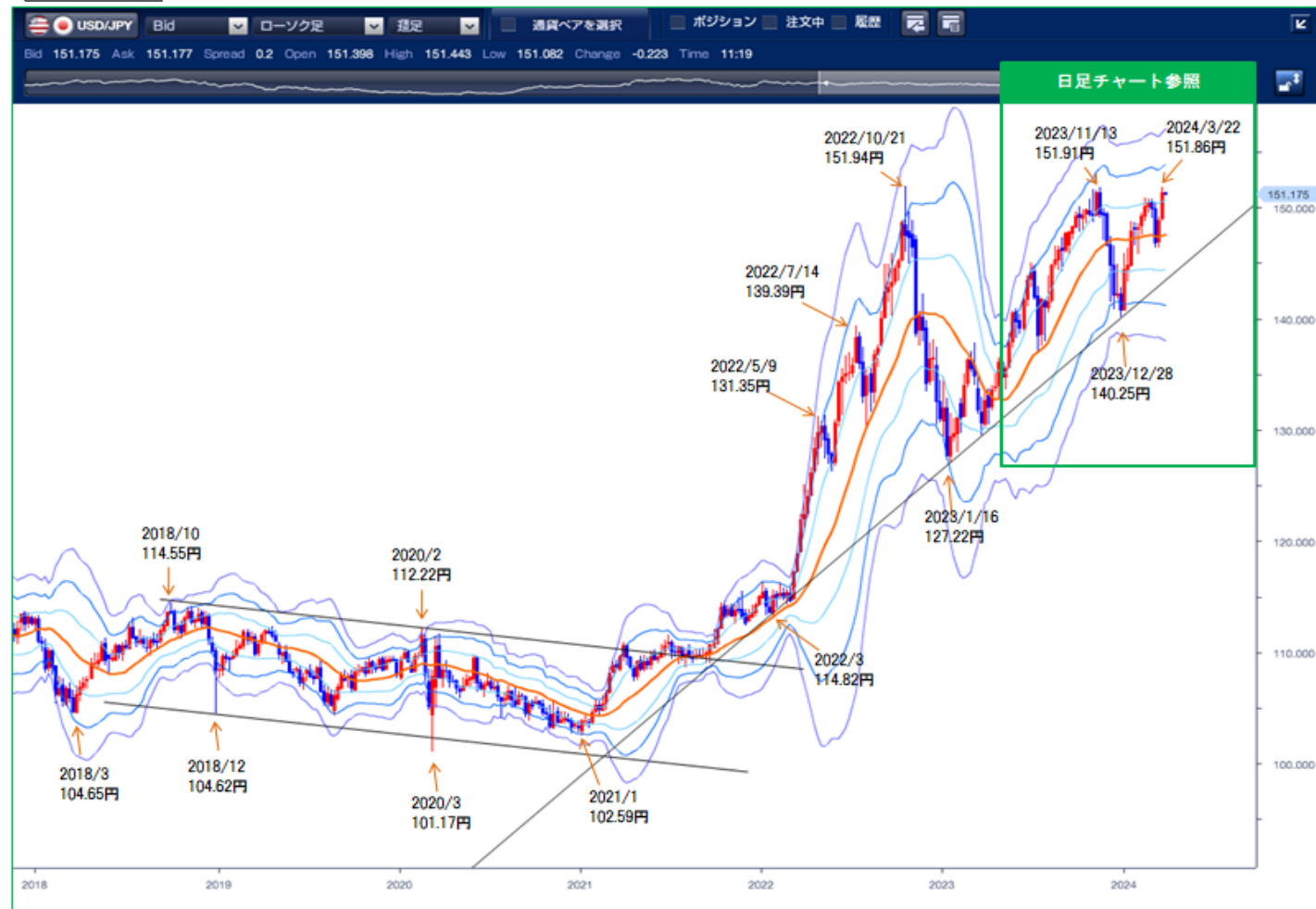


週足



長期概況

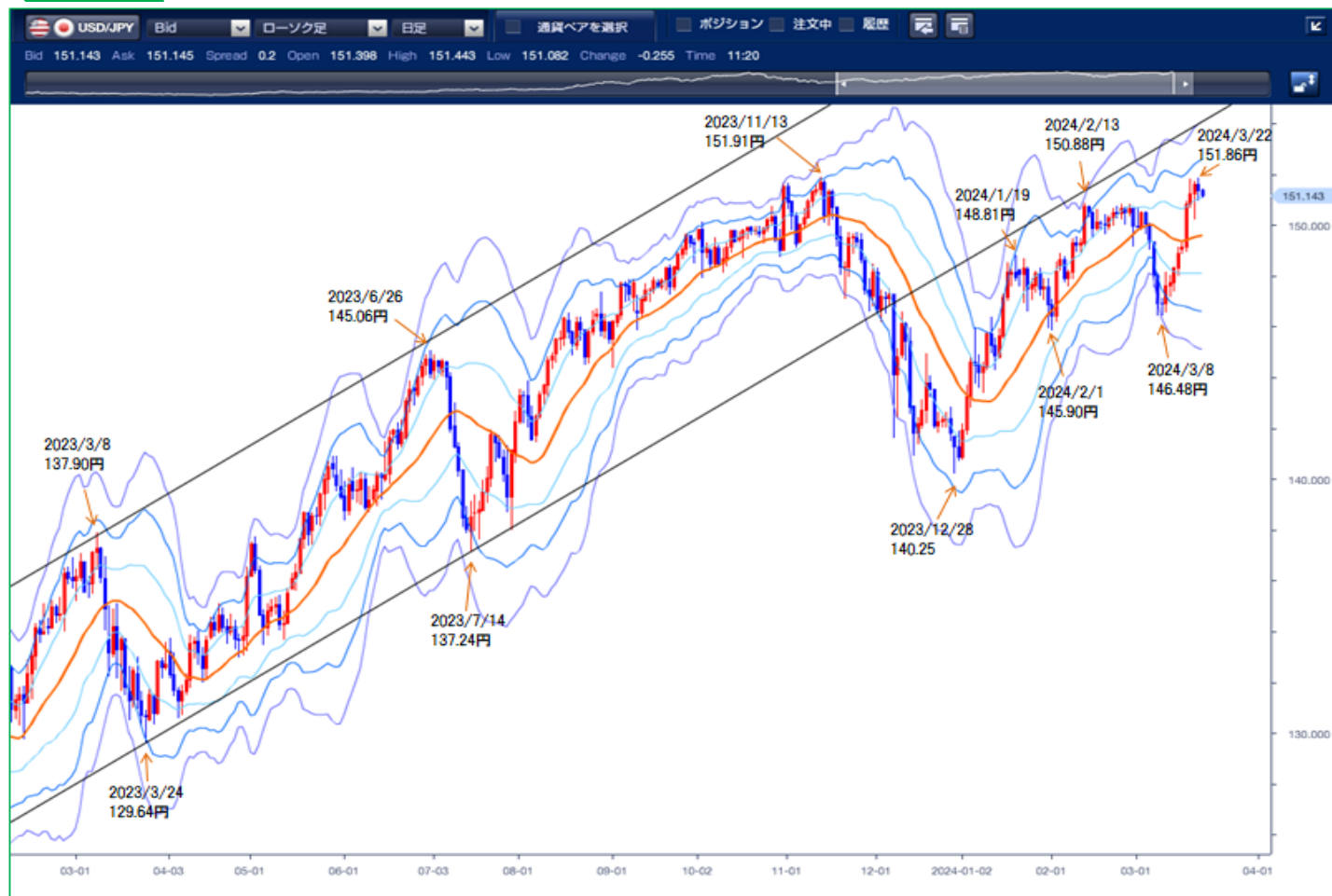
2021/1/6の安値102.59円を起点とした上昇トレンドは、2022年3月のFOMC会合における利上げ開始後、上昇ペースを早め、151.94円(2022/10/21)まで上昇しました。その後、政府・日銀による円買い介入や、米インフレ率の鈍化を理由として、調整の流れが強まり、127.22円(1/16)まで下落しましたが、日米金利差を背景としたドル買い円売りは根強く、再び151.91円(11/13)まで値を戻しました。その後、2023年末にかけて日銀のマイナス金利解除の思惑や、FRBの早期利下げ観測により140.25円まで下落(12/28)したものの、2024年に入り、日銀の金融政策に変更が無いことや、FRBの早期利下げ観測が後退したことで再び150円台まで上昇しています。

【2024/3/18~3/22】

今週のドル円は149.06円から始まり、高値は151.86円(3/22)、安値は148.91円(3/18)となっています。3/19の日銀会合でマイナス金利の解除が決定され、およそ17年ぶりの利上げを決定しました。ただ、植田日銀総裁の会見を経て、今後も緩和的な金融政策は維持する見通しであることがわかると円売りが強まり、151.81円まで上昇しました。その後、3/21 早朝3:00のFOMC会合で、5会合連続となる政策金利の据え置きが決定され、定例会見でのパウエルFRB議長のハト派的な発言を受け、150.27円まで急落しました。ただ、週末にかけて日経平均株価が大幅高となったことでリスク選好の円売り、また、米3月フィラデルフィア連銀製造業景況指数、米PMI総合、米PMIサービス部門、米2月景気先行指標総合指数などの米経済指標が軒並み市場予想を上回る強い結果だったことで、151.86円まで上昇し、年初来高値を更新しました。

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。

日足



今週の戦略

日足ボリンジャーバンドは、中心線が穏やかな上向きとなっており、上昇を示唆しています。
 週足ボリンジャーバンドは、中心線が横ばいで、もみ合いを示唆しています。
 以上のことから、3/25~3/29の週間予想レンジは以下の通りです。

◆ 予想レンジ 149.20円~152.60円

注目レート		テクニカル
上値②	152.60	・日足ボリンジャーバンド +2σ
上値①	151.91	・2023/11/13高値 ・2024/3/22高値近辺(151.86) ・2022/10/21高値近辺(151.94)
下値①	150.60	・2024/3/8安値146.48から2024/3/22高値151.86のフィボナッチ23.6%押し近辺
下値②	149.20	・2024/3/8安値146.48から2024/3/22高値151.86のフィボナッチ50.0%押し近辺 ・2023/12/28安値140.25から2024/3/22高値151.86のフィボナッチ23.6%押し近辺

このレポートは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであって、投資勧誘を目的として作成したものではありません。投資方針や投資時期等の最終決定は、お客様ご自身の判断と責任で行ってください。また、このレポートは信頼できるとされる各種データに基づき情報を提供しておりますが、正確性、妥当性等を保証するものではなく、この情報により発生したいかなる損害についても当社は一切の責任を負いかねます。なお、このレポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがあります。